

■許容荷重

①スライドパイプ無し

		単独支柱方式	ベタ支柱方式	枠組方式(フレーム)
	水平つなぎ	無	有	無
	許容荷重	(アルマビーム) 36.3kN/支柱 (ストリンガー) 53.9kN/支柱 (ベースプレート) 53.9kN/支柱	63.7kN/支柱	63.7kN/支柱

②スライドパイプ使用

スライドパイプ位置	スライドパイプ長	水平つなぎ	単独支柱方式	ベタ支柱方式	枠組方式(フレーム)
上端に使用	585mm以下	水平つなぎ	無	有	有
		許容荷重	(アルマビーム) 26.5kN/支柱 (ストリンガー) 36.3kN/支柱 (ベースプレート) 53.9kN/支柱	43.1kN/支柱	43.1kN/支柱
	1,035mm以下 (単独735mm以下)	水平つなぎ	無	有	有
		許容荷重	(アルマビーム) 25.5kN/支柱 (ストリンガー) 34.3kN/支柱 (ベースプレート) 53.9kN/支柱	37.2kN/支柱	37.2kN/支柱
中間に使用	945mm以下	水平つなぎ	使用不可	有	有
		許容荷重		50.0kN/支柱	50.0kN/支柱
		水平つなぎ			無
下端に使用	1,035mm以下 (単独735mm以下)	水平つなぎ	無	有	無
		許容荷重	上端使用と同じ	46.1kN/支柱	46.1kN/支柱

「単独支柱方式」とは水平つなぎを取らないこと

「ベタ支柱方式」とは3.5m以上の場合にY方向、X方向に水平につなぎを取ること

フレームの水平抵抗力(水平材、斜材)：11.8kN/1構面

クロスブレースの水平抵抗力(スパン2130)：5.39kN/1構面

(スパン3050)：5.00kN/1構面

スクリージャッキ：127kN

※調節長150～500mmであるが450mm以下の使用が望ましい(アルマシステムズインターナショナルの見解)

ストリンガービーム



## ■仮設工業会承認における使用基準

	単独支柱方式	ベタ支柱方式	枠組方式(フレーム)
支柱間隔		3.5m以下	
支柱高さ	3.5m未満(支柱の継ぎ足し不可)	9.5 m 以下	短辺支柱間隔の22倍(max50m)
スクリージャッキ	上下同時使用不可	上下同時使用可	上下同時使用可
スライドパイプ	(原則)使用せず 使用の場合は許容値を低減	1支柱当り1本使用可	1支柱当り1本使用可
上部・下部	リング無 1185mm以下	リング無 1185mm以下	リング無 1185mm以下
中間部	不可	リング付 945mm以下	リング付 945mm以下
重なり長	240mm以上	240mm以上	240mm以上
水平つなぎ (3.5mm以上に必要)	不要	上下端、高さ2m以下ごと	スライドパイプ位置にX,Y方向 設けない場合は許容荷重を低減
変位防止	・水平変位を拘束された物に支持 する	・単管、クランプで斜材を設け る(約45°) ・水平つなぎの端部を堅固な 構造物に固定する	・ブレース、フレーム斜材・水平 材で負担
転倒防止			支保工高さが、短辺支柱間隔の 5倍を超える場合 ・5段以下毎にX,Y方向に水平 つなぎを設ける ・水平つなぎ位置には水平 ブレースまたは布枠を設ける
その他	支柱の接続	支柱ジョイント(フレームジョイント)とジョイントピンを使用し、松葉ピンで抜け止めをする	
	ベースプレート	支柱下部にスクリージャッキを使用しない場合は、支柱にベースプレートを専用ボルトで取付ける	
	スクリージャッキ	支柱の上下端に使用し、レベル調整、荷重の除荷に使用。 ベースプレート、大引受けを専用ボルトで取付ける	
	スライドパイプ	上下端には「リング無し」、中間には「リング付き」を使用する ジョイントピンで固定し、松葉ピンで抜け止めをする	
	ベアリングキャップ	支柱にスクリージャッキを差し込む場合には使用する	
	ビームの固定	ビームと大引受、ビーム同士は、アルマボルト及びジョーズクランプ2個で固定する	
	HSクランプ	規定無し	
	スタンド	規定無し	

サポートスタンド

